

自宅で地質を楽しんで学べる「地質の日」特設ウェブサイト開設

—5月10日地質の日 第13回事業の紹介—

2020年4月21日

一般社団法人日本地質学会

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

一般社団法人日本地質学会(以下地質学会)が主要加盟団体として参画する「地質の日」事業推進委員会*1は、自宅で地質を楽しみながら学べるデジタルコンテンツ(動画、よみもの、クイズ、パズルなど)へのリンクを集めたポータルウェブサイト、「あつまれ!地質を楽しむデジタルコンテンツ」を開設いたしました。例年地質の日前後に全国の博物館など他で多数行われる記念イベントが、今年はコロナウイルスの影響でほとんど行われないことから、別の方法で地質に親しんでいただこうと考えてこのようなサイトを開設しました。

ウェブサイトは国立研究開発法人産業技術総合研究所(以下産総研)におかれ、そのURLは以下の通りです。

地質の日トップページ: <https://www.gsj.jp/geologyday/>

あつまれ!地質を楽しむデジタルコンテンツ:

<https://www.gsj.jp/geologyday/2020/homestudy.html>

■ポイント■

・5月10日の地質の日を記念して、例年その前後に全国の自然史系博物館を中心に多数の記念イベントが開催されますが、今年はコロナウイルスの影響でイベントの開催が難しくなっています。そこで、野外イベントへの参加や博物館見学ができない子供たちのために、地質を自宅で楽しみながら学べる、博物館や関連機関で作成されたデジタルコンテンツ(動画、よみもの、クイズ、パズルなど)へのリンクをまとめたウェブサイトを開設しました。

・NHKの人気番組「ブラタモリ」、日本初の地質年代の国際標準模式地認定である「チバニアン」(千葉県市原市)の話題などをきっかけに、自分の足下の大地の性質である「地質」に興味を持つ方が増えています。地質の日特設ウェブサイトが、コロナウイルスの影響で閉館中の博物館や、最近ほとんど行われていない野外自然観察会などの代わりに、地質に関して楽しんで学ぶ機会を提供できると考えています。

■開設されたサイトの概要■

代表的なサイトを以下に紹介します。現在、約40のサイトがリンクされています。サイトはこれからも増えていく予定です。

・まんがで学ぼう!地質 [産総研地質標本館]

杏桃(あんも)ちゃんと騎士(ないと)くんと一緒に、地球の歴史やそのダイナミックな活動の様子を伝えるストーリーの中に入れていきましょう。(全11話)

・地層：深海から生まれた三浦半島(動画) [横須賀市自然・人文博物館]

地層や化石による三浦半島の生い立ちを解説。深海にどろや火山灰が積み重なり、プレートの動きによって力を受け、地層がおし上げられて陸地となり、三浦半島ができました。

・誕生石ペーパークラフト [産総研地質標本館]

誕生石とは生まれた月それぞれに当てられた宝石のことです。紙をきれいに切り取ってから工作すると、五角十二面体の結晶の形をしたサイコロが完成します。

・地質博士にチャレンジ！ [産総研地質標本館]

4 択クイズや〇×クイズを通して地質博士にチャレンジしよう！きみはいくつ正解できるかな？

・ボクたちの”足もと”から地球のことを知ろう(web 教材) [日本地質学会]

日本のすごい地形や地質について学んだり、身近なものをつかった地層や地形の実験方法を動画で紹介しているよ。

・おうちで楽しむ自然史博物館 [大阪市立自然史博物館]

休館中でも大阪自然史博物館をご活用いただくために、地質に限らず、自然史博物館にまつわる様々なコンテンツを用意しました。

■ 「地質の日」事業全般の問い合わせ先 ■

地質の日事業推進委員会事務局（産総研地質調査総合センター）担当：渡辺、荒岡、森田

〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第 7

TEL:029-861-3540 FAX:029-856-4989 E-mail :geologyday-jimu-ml@aist.go.jp

資料 1)地質の日ポスター(地質の日 WEB サイトからダウンロード可。再配布自由。)

*1 「地質の日」事業推進委員会：日本地質学会、日本応用地質学会、日本情報地質学会、日本古生物学会、資源地質学会、日本堆積学会、日本第四紀学会、産業技術総合研究所地質調査総合センター、北海道立総合研究機構地質研究所、全国科学博物館協議会、国立科学博物館、日本科学未来館、神奈川県立生命の星・地球博物館、全国地質調査業協会連合会、東京地学協会、日本鉱物科学会、日本ジオパークネットワーク（順不同、2020 年 4 月現在）

《備考》

■ 地質とは ■

私たちの住んでいる大地は、地層、岩石、土壌などでできています。これらの物質やその性質のことを「地質」と呼びます。人間に例えれば、地球の表面を覆っている服(植生)をめくった体そのものと考えて良いと思います。

地質は、エネルギーやさまざまな材料の素となる鉱産資源や温泉のような豊かな恵みをもたらします。また、地質を知ることによって、構造物の基礎や地下施設の安全な設計をすることができます。

さらに、地質を理解することは、地震、火山噴火、斜面崩壊などの発生メカニズムを理解し、災害を予測したり、被害の低減を図る上でも、大変重要です。

■ 地質の日制定の社会的背景 ■

現在、地質への一般の関心は残念ながら高いとは言えません。専門とする教員がいないために地質を十分に学ぶことのできない高校が多くあります。小学校・中学校でも、教員が地質をあまり学んでいないために教えることさえままならなくなっていると言われていています。しかし、私たち人間が地球上で、安全安心で豊かな生活をしていくためには、足下の身近な地質について知っておくことが必要です。地質の日事業推進委員会を初めとして、地質に携わる者は、一般の人々に身近な地質について興味を持って頂き、地質への理解が深まることを期待しています。

■ 地質の日制定の経緯 ■

「地質」の記念日を作ろうという動きは 2000 年頃から当時の通産省地質調査所でありました(地質ニュース 547 号など)。その後、しばらく動きが途絶えていましたが、2006 年 8 月に茨城大学理学部の天野一男教授が「地質の日」制定の提案を学会の広報誌(地質学会 News、2006、8 月号)に寄稿したことを契機に、再び「地質の日」制定の気運が高まり、2007 年 3 月 13 日に地質に関係した学会・機関*2 が発起人となって「地質の日」を定めました。

■ 地質の日の由来 ■

“お雇い外国人”地質学者ライマン(米国)らによって、明治 9 年(1876) 5 月 10 日に日本初の広域的な地質図「日本蝦夷地質要略之図」が刊行されたことにちなみます。明治の初期にわずか数年で、日本全国の地質図を作成したことは驚くべき成果です。なお、明治 11 年(1878) 5 月 10 日には、初めて地質の調査が国の事業の中に位置づけられたということもあり、地質には縁の深い日です。

■ 地質の日事業の内容 ■

「地質の日」前後には、各地域の博物館等を中心として、地質図、化石、鉱物、地震、火山等をテーマにした展示やイベントを始めとして、記念出版物の刊行、各地のジオパークや博物館で地質に関連した野外見学会やツアーなどの記念事業が開催されます。これを機会に、地質について地域の人々の理解が深まることが期待されます。今年は、コロナウイルスの影響でイベント、講演会や野外見学会などの開催が困難であるため、デジタルコンテンツの地質の日特設ポータルサイトを開設しました。

*2 発起人:日本地質学会、日本応用地質学会、日本情報地質学会、日本古生物学会、資源地質学会、(独)産業技術総合研究所地質調査総合センター、(独)北海道立総合研究機構地質研究所、神奈川県立 生命の星・地球博物館、(社)全国地質調査業協会連合会、(NPO)地質情報整備・活用機構 (順不同)